

TDMへの応用を目指した血漿中薬物濃度と臨床効果に関する研究

著者	野田 久美子
学位名	博士（薬学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	平成25年度
学位授与番号	30110乙第102号
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00004799/

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査 齊 藤 浩 司



副 査 唯 野 貢 司



副 査 豊 田 栄 子



副 査 平 藤 雅 彦



このたび 野田 久美子 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行
い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

TDM への応用を目指した血漿中薬物濃度と臨床効果に関する研究

2. 論文要旨 別 添

3. 学位論文審査の要旨

本学位論文は、ペプリジルとミカファンギンの簡便で精度に優れた HPLC 法を新
たに構築し、血漿中濃度を基に心房細動患者、真菌感染症患者における両薬物の投
与量と有効性の関係を詳細に解析した。

予備審査において本学位論文は「ペプリジルおよびミカファンギンの血漿中濃度測
定法の構築ならびに薬物血漿中濃度と臨床効果に関する研究」として提出されたが、
本審査に向けて題目が変更され、また予備審査委員の指摘を活かして論文に適切な
加筆・訂正が加えられた。これにより、TDM を通してペプリジル及びミカファンギ
ンの臨床効果を評価していくことの必要性・重要性が明確化され、学位論文に相
応しい内容になっていると判断された。

ペプリジル及びミカファンギンはいずれも近年使用頻度が増加している薬物であ
り、今後各方面での臨床応用に広く有益な情報を提供する研究として高く評価され
る。

4. 最終試験（学力の確認）の要旨

研究発表会における発表は論旨の通った内容にまとめられており、様々な観点か
らの質問に対しても的確に回答した。また、学位論文中には数多くの海外文献を引
用しながら多面的な議論を展開している。これらのことから、学位授与に値する高
い専門性と十分な力量を身につけていると判断された。

ある

以上の結果、野田 久美子 は博士（薬学）の学位を授与する資格の ある ものと
判定する。 ~~ない~~

以上